

小学2年の教室で

戦中生まれのわれわれの世代は、お上から「産めよ増やせよ」の号令がかり、現在の2倍以上の赤ちゃんが出生していた。その上、四日市市内の90%は爆撃のため焼け野原になり、学校が不足していた。

私の通う中部小学校は四日市市の中心部にあったが、近くを流れる小川には魚や小鳥、多くの昆虫がいて、下校時に釣りをしたり、虫を捕まえて遊んだものだった。

1950（昭和25）年、私が小学2年生のころには1クラスに現在の約2倍の50人以上もの生徒がひしめきあっていた。朝礼で1人ずつ順番に問題を出し、それに誰かが答えるという行事があった。例えば、「お母さんに20円

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 2



小学校2年の旧友と（上段中央が私）

もらいました。焼き芋を二つ買ったなら16円でした。お釣りはいくらですか」と言

ったたぐいだ。級長だった毛利英司が、「昨日、9

習ってもない計算ができた

夫君お前もか」と思ったに違いない。しかし私が81円と答えると、「澄夫君、お姉さんに九九を教えてもらったの？」と問われた。

「いいえ、ククは知りません」。先生の「それでは、どう計算したの」と尋ねた。そこで私は「9+9は18と足算が難しくなる。それで9円の饅頭を10円として90円にしました。しかし、1個に付き1円ずつ余分になっているので、90円から9個分の9円を引きま

だ。担任の渡辺つね先生は、「これは難しい問題だ。来年になれば九九を習うので、今は答えられなくてよい」と言った。そこで引込み思案の私が恐る恐る手を上げた。先生は「またか、澄初めて褒められた出来事であった。私としては困難な計算をしたとは思っていなかったが、渡辺先生は絶句したようだった。後に父兄会で、こんな計算のできる2年生がいる、と話題になったそうだ。小学校に入って父親に